

◆大使からの活動報告(2015年1月上旬～中旬)

(中米最大規模の製糖企業訪問・当国海軍記念日式典他)

2015年1月18日

在グアテマラ日本大使

川原 英一

■大統領主催新年祝賀式典:

1月5日午前、国家宮殿内でペレス・モリーナ大統領主催の新年祝賀式があり、各国大使、国際機関代表、総領事などが同宮殿に参り、大統領の新年挨拶や外交団を代表したバチカン大使挨拶のあと、大統領と各



国大使と個別にご挨拶の機会がありました。当方からは、今年が両国の外交関係80周年の重要な年であり、この一年、各種行事・活動を通じて共にお祝いをしたい旨申し上げました。

◆グアテマラ産業会議所会頭らと懇談:

1月8日、グアテマラ産業会議所ビル内で、ロペス会頭(左写真右端)とセペダ専務理事(同左端)にお会いして懇談。グアテマラを取り巻く最近の経済・ビジネス事情について意見交換を行うとともに日本とグアテマラとの外交関係80周年



行事活動への理解と協力をお願いしました。同会議所ビル3階にある劇場施設など視察しました。

◆中米最大規模製糖企業の視察

グアテマラの年間砂糖生産量は、約280万トン(2013/14)であり、そのうち2百万トン以上が輸出されています。中南米では、伯、墨に次ぐ第三位の輸出国です。砂糖プランテーションは、グアテマラ市から車で1時間半ほど南下したエスクイントラ県南部一帯に集中しています。今回、国内生産の約4分の1を生産するマグダレーナ社の工場を視察しました。延々と広がるサトウキ



ビ畑には大型自動灌漑施設がみられ、その間を同社が自前で建設した輸送道路が走り、農場内で使用する総数8千台のトラクター・トレーラ・ピックアップなどの修理・整備



のため24時間稼働の整備工場があり、自家消費のための大型発電所(130MW 規模)、砂糖保存のための低圧力の大型サイロ(1基あたり7万5千トン)、サトウキビ絞りがすから副産物であるアルコール蒸留大型施設があり、同施設の生産過程は中央制御室でコンピュータ管理されて



いました。

また、同社内には、良質なサトウキビ品質改良研究施設(左写真)もありました。生産に従事する労働者は約1万2千人、サトウキビ収穫時期(11月から半年)には、カッターと呼ばれる労働者が山岳地帯からやって来て、2倍程度の労働者を同社が雇用しています。

これら労働者のためのアパート、労働者のため、カロリー計算された栄養食品製造工場(左写真)があり、従業員のための診療所施設なども見せてくれました。同企業は1960年頃から活動を開始し、1983年頃には、ほぼ現在の生産体制になったこと、従業員の教育・訓練・健康・安全面に大いに力を入れていることなど、創業者の夫人で最高責任者の方から伺いました。

(※参考:グアテマラからの砂糖輸出量は、年々増え、現在、2百万トンを超えています。カナダ、韓国、米国などが主要輸出先。)

◆製糖業協会研究施設の視察



グアテマラには、13の製糖企業が加入する製糖業協会があり、サトウキビの品質管理・改良、ウィルス病害対策などについての研究施設や3年前から気候変動研究所が設立されて、各々活動しています。また、これら同研究施設の周りには、学校があり、デル・バジェ大学(主要私立大)の同県キャンパスも隣接しています。

3年前から活動を開始した気候変動研究所のアレックス所長によれば、エクスクイントラ県内に21の測候所を製糖業協会が自前で建設して、オンラインで地域全体の天候がモニタリングされており、15分毎に気象データが利用できること、こうしたデータは、同県に広がるサトウキビ農場の運営に利用される他、年間降雨量が3千から5千ミリと多いことから、関係自治体と連携して河川周辺地域住民のための防災ハザードマップや早期警報システムに利用されています。同研究所には、40名近い職員以外にも、いくつかの大学からのインターンを受け入れていました。

◆リソ・サンホセ市長との懇談:

リソ市長(下写真)が3年前に同市の市長就任した際は、前任市長が多額の負債(約6千万ケツアル)と職員給与未払いなど問題山積の状況からスタートしたけれど、3年を経過して、一部は政府支援をしてもらい、ようやく財政問題への解決見通しがついたこと、職員の士気を高め、5.8



万人市民への医療サービス向上、市の治安改善、初等・中等教育の充実などの重点事項に取り組んでいること、最近では漁業が不振となってきたので、今後は太平洋岸のリゾート地として観光産業を振興したいとの話を伺いました。同市のコミュニティ活動に対して、独、イスラエルなどから支援が過去にあったようです。

■ケツアル港湾施設の視察



16日朝、国家港湾委員会専務理事のご厚意で、ケツアル港湾施設を視察しました。ターミナルは2百メートル級が4つあり、コンテナ船用とバルク船用に各2つ。また、当方からの質問に対して、ターミナルの水深は12メートル、進入水路は水深15、16メートル、コンテナの一日扱い量は600ユニット程度との説明がありました。ターミナルの真横には、バル

ク船用の砂糖サイロがあり、少し離れたところに、風力発電施設(当国初)と火力発電所(左写真)もありました。同ターミナルからはあまりよく見えませんが、海軍基地も隣接しています。別途新ターミナルが、民間投資で建設中であるのが見えました。

■マグロ加工輸出企業(RIANXEIRCA)視察

1月16日、ウイリー同社代表自らが、同社工場内を丁寧に案内して下さいました。同工場では(キハダ)マグロの加工・輸出を行っており、1日当たりの加工量は60トン、多い時期には百トン程度あります。解体作業(骨・内臓などは手作業)をした後、冷凍、缶詰、魚粉(フィッシュミール)、魚油など生産しています。冷凍品・缶詰製品(ツナフレーク)の全量が、欧州(スペインが8割以上)に輸出されていること、従業員500名中、9割が女性従業員であり、特にシングルマザーを積極的に雇用しており、従業員の平均月収も相当に高いようです。国際環境基準(ISO14001)をクリアした同工場内にはハエ一匹もおらず、工場内の衛生管理は徹底されていました。同工場が操業開始して17年間、一度も労働争議が発生していないことを同代表は誇らしげに語っておられました。同社工場建設に、125百万ケツアルを投資した由。工場周辺には、レモンなど果樹や竹を栽培していました。地域経済への貢献企業、輸出貢献企業の好例として、注目されます。



■海軍記念日式典出席(海軍基地施設内)



1月16日午後、海軍記念日式典がプエルト・ケツアル海軍施設内で挙行され、ペレス・モリーナ大統領、ロペス国防大臣、軍関係者・各国大使館アタッシェ、港湾関係者・地元有力者ら多数が見守る中、海軍・陸軍・海軍歩兵特殊部隊などによる見事な行進、功績叙勲、慰霊行事などが行われ、その後、関係者歓迎レセプションがありました。

当方は、国防大臣、海軍次官、空軍司令官、海軍基地司令官、国家港湾委員会幹部、外務次官らと懇談して、今年は、グアテマラと日本との外交関係樹立80周年の重要な年にあたり、多様な交流活動が予定されているので、主要行事へのグアテマラ関係者の参加・協力をお願いしました。

■日本人学校餅つきカルタ大会

1月17日、日本人学校で毎年恒例の餅つきカルタ大会がありました。PTAのお母さん方が、搗き立ての餅を、お雑煮、きな粉餅、磯辺巻き、あんこ餅など、手際良く作ってくださり、参加者



全員に振舞われた他、餅つきと併せて、校庭でのカルタ大会が行われました。学校教員、在留邦人、JICA職員、青年協力隊員の方々が多数御参加されて、子供達と楽しい一時を過ごしました。子供達から、とても楽しかったとの喜びの声や日頃の日本人学校へのご支援に対して、感謝の言葉がありました。



◆ボコバ・ユネスコ事務局長のグアテマラ公式訪問



ユネスコ事務局長が、1月16日から3日間にわたりグアテマラを公式訪問され、大統領をはじめ、教育大臣、社会開発大臣、文化大臣、内務大臣ら主要閣僚、国会議長らと懇談を行い、また、2015年には、グアテマラ市が「イベロアメリカ文化首都」として宣言され、ボコバ事務局長に対するアルスー同市市長から記念の市の鍵の授与、ユネスコの活動70周年を称えて、グアテマラ教育省から叙勲がされました。同事務局長は国内のマヤ遺跡の空からの視察、世界一美しいと言われるアティラン湖も視察されました。

1月17日夜、文化スポーツ大臣主催の同事務局長(左写真左端)歓迎式典が、国立考古学民俗学博物館であり、この機会に当方からもボコバ事務局長に挨拶申し上げました。(了)